

一般国道1号

ふじえだおかべ
藤枝岡部IC関連

(道路事業)

説明資料

平成30年1月29日

中部地方整備局
静岡国道事務所

目 次

1. 一般国道1号 藤枝岡部IC関連の事業概要

- (1)事業目的 P 1
- (2)計画概要 P 2

2. 評価の視点

(1)事業効果の発現状況

- ①高速道路アクセス機能の強化 P 3
- ②緊急時の代替路確保 P 4
- ③地域活性化の支援(企業活動の支援) P 5
- ④地域活性化の支援(地域産業(漁業)の支援) P 6

3. 社会経済情勢の変化

- ①幹線ネットワークの拡充 P 7

4. 対応方針(原案) P 8

1. 一般国道1号藤枝岡部IC関連の事業概要

(1) 事業目的

一般国道1号藤枝岡部IC関連は、新東名高速道路と一般国道1号藤枝バイパスを直結する延長2.1kmの道路であり、高速ICアクセス機能強化、緊急時の代替路の確保、地域活性化の支援を主な目的として計画された道路です。

藤 枝 岡 部 I C 関 連 の 全 体 位 置 図



図1 広域図

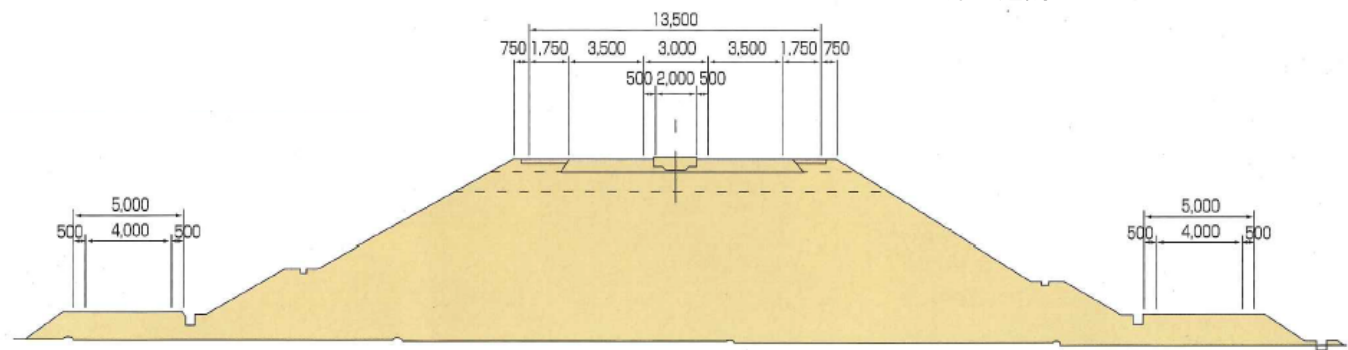
1. 一般国道1号藤枝岡部IC関連の事業概要

(2) 計画概要

- 事業名 : 一般国道1号藤枝岡部IC関連
- 起終点 : (起点) 静岡県藤枝市仮宿
(終点) 静岡県藤枝市岡部町入野
- 延長 : 2.1km
- 道路規格 : 第1種第3級
- 設計速度 : 80km/h
- 車線数 : 2車線
- 都市計画決定 : 平成3年度
- 事業化 : 平成7年度
- 用地着手年度 : 平成9年度
- 工事着手年度 : 平成16年度
- 工事完成年度 : 平成24年度
- 全体事業費 : 約313億円
- B/C : 1.2



※H27道路交通調査



2. 評価の視点：一般国道1号藤枝岡部IC関連

(1) 事業効果の発現状況

① 高速道路アクセス機能の強化

- 新東名高速道路に接続する(主)焼津森線などは、幅員の狭い市街地を通過しているため、藤枝岡部IC開通後の交通量増加による沿道環境の悪化が懸念されていました。
- 藤枝岡部IC関連の整備により高速道路アクセス性が向上するとともに、IC出入交通量の約6割が藤枝岡部IC関連を利用することにより、周辺道路の交通量・死傷事故件数・大型車混入率の増加が抑制されています。

○ 開通前の通行経路



○ 写真①



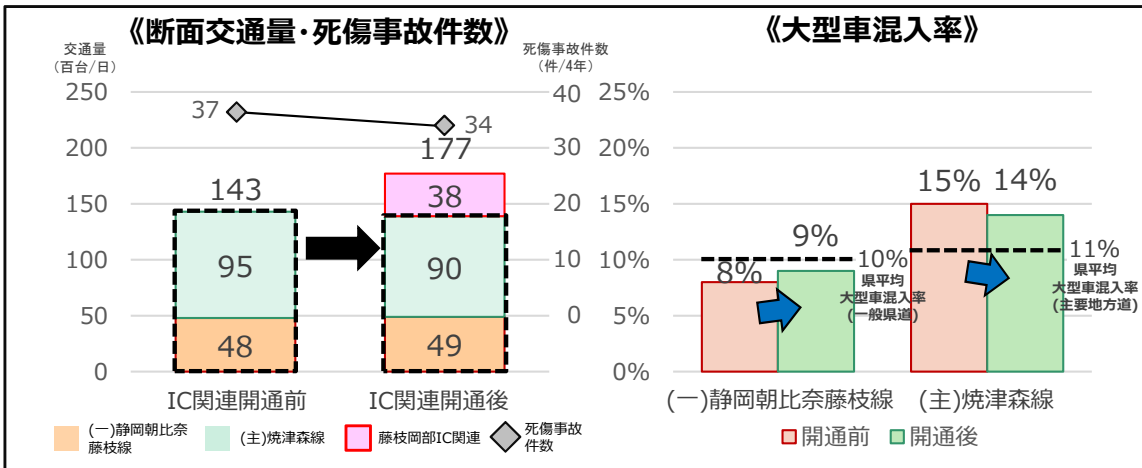
○ 写真②



○ 開通後の通行経路



○ 周辺道路の断面交通量・死傷事故件数・大型車混入率の変化



出典 交通量(24時間) IC出入交通量 H27調査 藤枝岡部IC関連交通量：H27道路交通調査

出典 交通量・大型車混入率(24時間) 開通前：H22道路交通調査、開通後：H27道路交通調査
死傷事故件数：ITARDA事故データ、(一)静岡朝比奈藤枝線、(主)焼津森線の藤枝岡部IC～藤枝BP間における死傷事故件数計、開通前：H19～H22、開通後：H25～H28

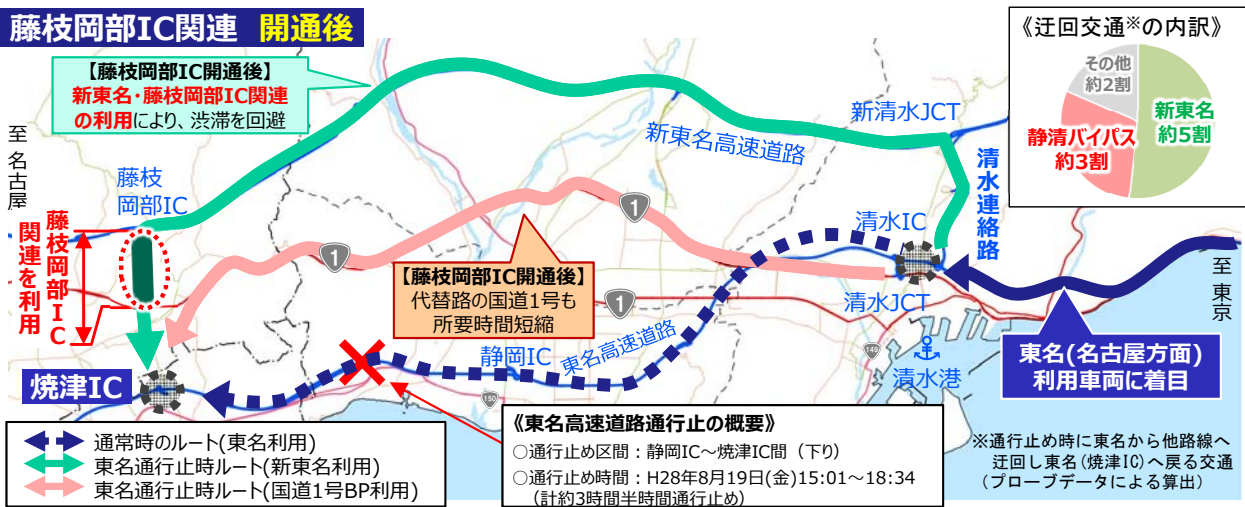
2. 評価の視点：一般国道1号藤枝岡部IC関連

(1) 事業効果の発現状況

② 緊急時の代替路確保

- 藤枝岡部IC関連開通前は、東名高速道路の静岡IC～焼津IC間が通行止となった場合、迂回交通が国道1号バイパスに集中して渋滞が発生していました。
- 藤枝岡部IC関連の開通により、東名高速道路が通行止時に新東名高速道路から焼津ICへのアクセスが容易となり、東名・新東名のダブルネットワークの相互利用に寄与、国道1号とあわせて災害等緊急時の代替路として機能します。

○東名高速通行止時の代替路（東京方面から東名清水IC～焼津IC間を利用する交通に着目）



所要時間大幅短縮

2. 評価の視点：一般国道1号藤枝岡部IC関連

(1) 事業効果の発現状況

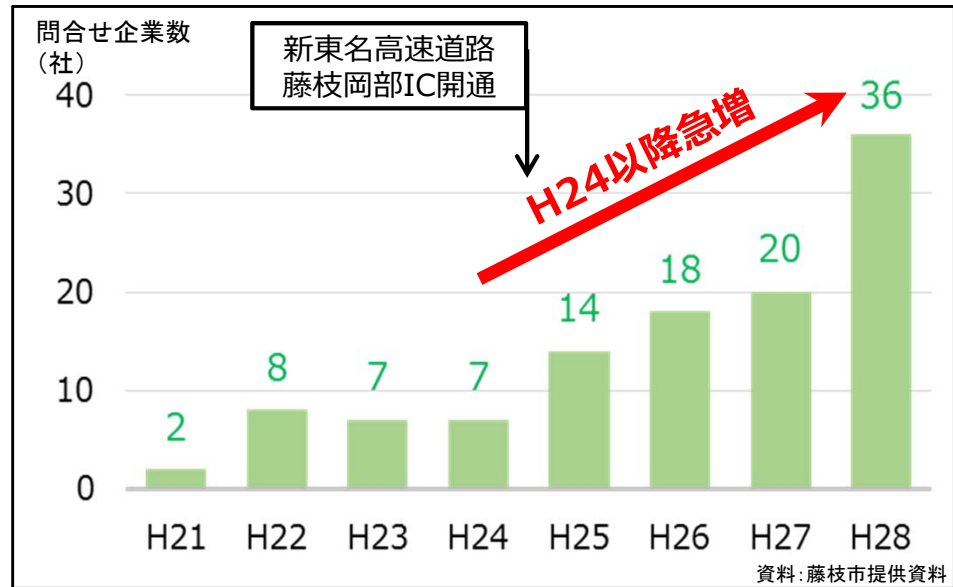
③ 地域活性化の支援(企業活動の支援)

- 藤枝岡部IC関連の開通により、同ICから藤枝工業団地・藤枝家具工業団地等へのアクセス性が向上しました。
- 近年、藤枝市では企業進出に関する問合せ件数が急増するなど、企業進出のニーズが高まっており、広幡IC周辺の「内陸フロンティア推進区域」では、新たに第6次産業企業の進出が決定しています。

● 藤枝岡部IC関連開通有無による新東名ICアクセスルート



● 企業進出に対する問合せ企業の推移(藤枝市)



● 内陸フロンティア推進区域への第6次産業企業の進出

- ・ 藤枝岡部ICからほど近い「仮宿地区」に、「食と農」に関する事業の第1号として、農産物生産・加工・販売関連企業の進出が決定。
- ・ オリーブの産地化事業を核に、6次産業化や観光資源化、活力ある地域づくりなどにつながる、さまざまな事業展開が予定されている。



2. 評価の視点：一般国道1号藤枝岡部IC関連

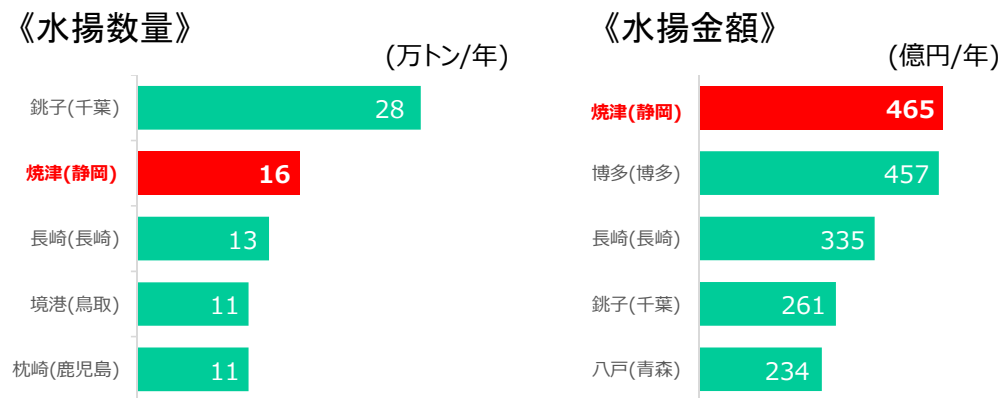
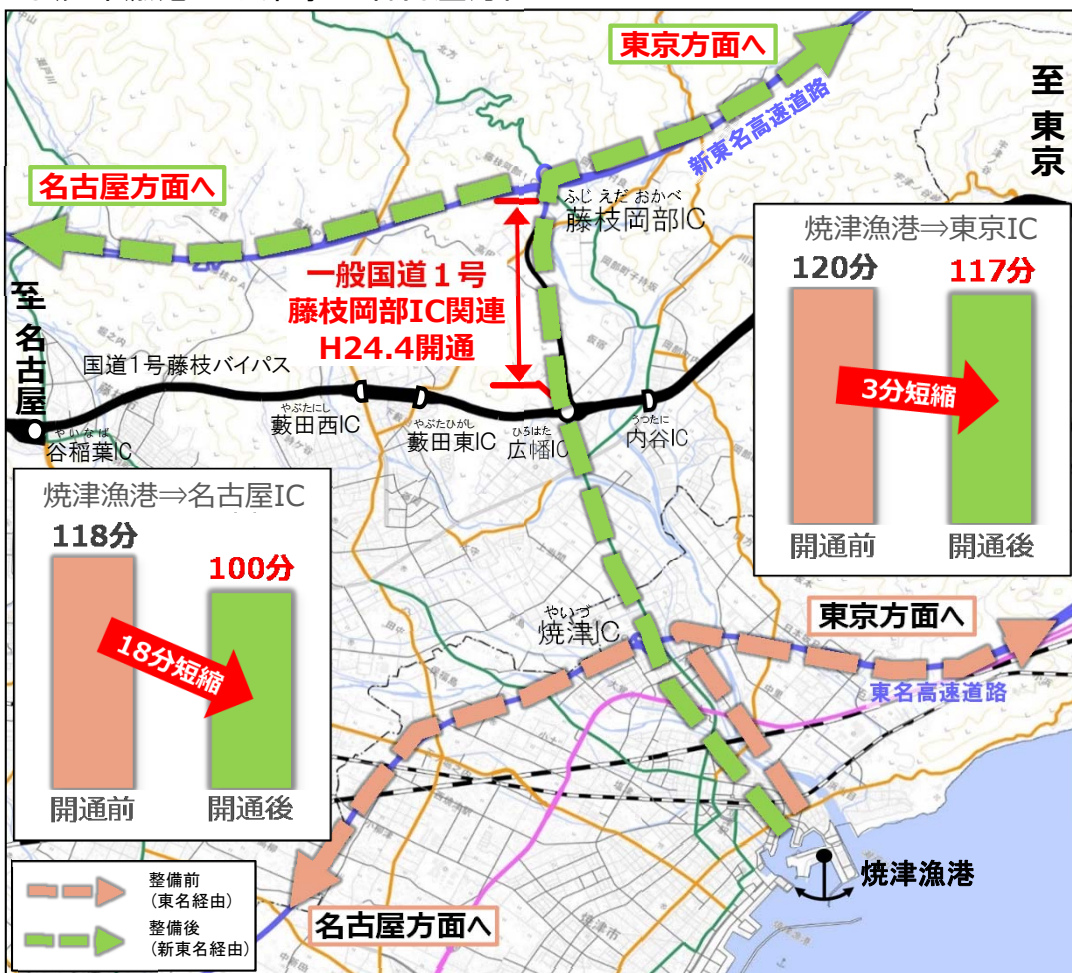
(1) 事業効果の発現状況

④ 地域活性化の支援(地域産業(漁業)の支援)

- 焼津漁港は関東・関西圏の中央に位置する好立地条件や港内が静穏であることから、カツオやマグロの水揚げを主とした遠洋漁業が盛ん(水揚量日本2位、水揚金額日本1位)。
- 焼津漁港から東京、名古屋への長距離輸送では、藤枝岡部IC関連～新東名を利用することで輸送時間がそれぞれ名古屋ICまで約18分、東京ICまで約3分短縮しています。

○ 焼津漁港から東京・名古屋方面へのアクセス

○ 焼津漁港の水揚数量・水揚金額



※出典：平成28年全国主要漁港水揚高



※所要時間 開通前：H22年度平日プローブデータ 開通後：H28年度平日プローブデータ

※出典：静岡県資料

3. 社会経済情勢の変化

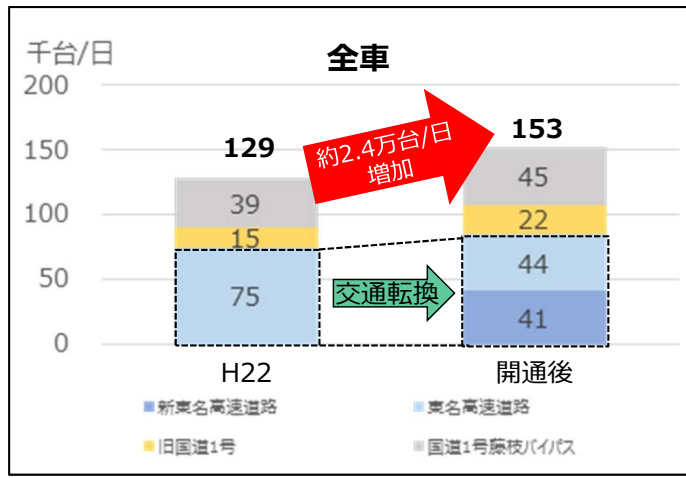
① 幹線ネットワークの拡充

- 平成24年4月の新東名開通にあわせ、藤枝岡部IC関連、国道1号藤枝バイパス(内谷IC～広幡IC間)が4車線で開通し、周辺アクセス道路の強化が図られています。
- 新東名開通後の高速道路・国道の全車交通量は約2.4～2.6万台/日増加しており、東名の交通が新東名へ転換しています。

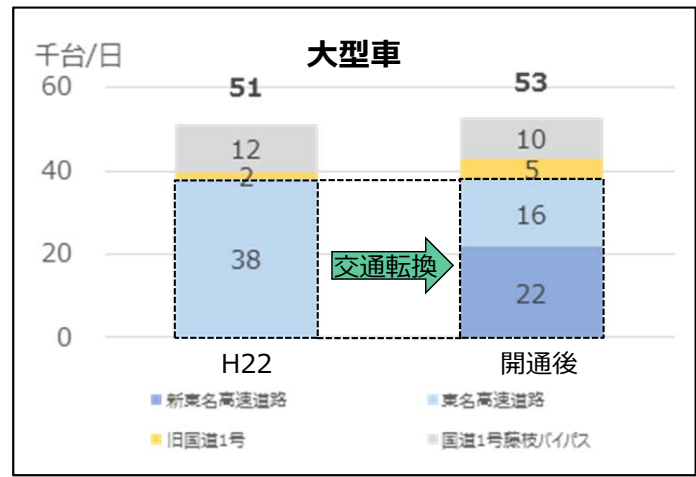
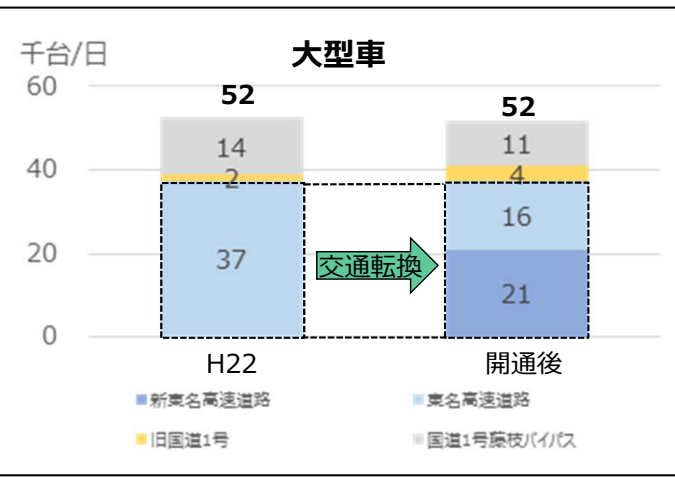
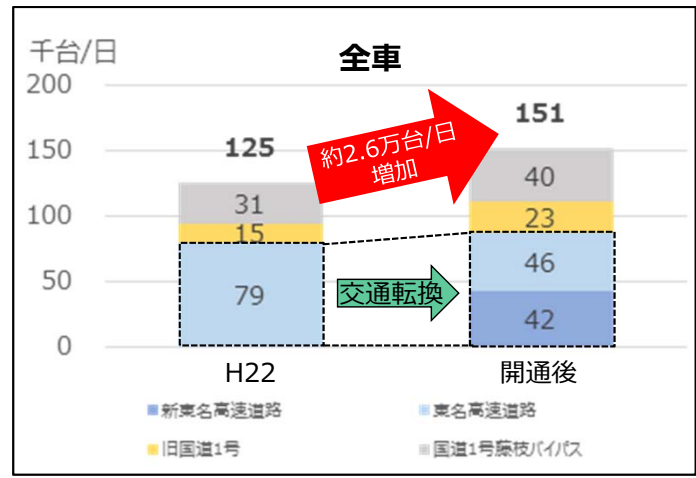
○交通状況の変化



○開通前後の断面交通量変化 (断面①)



○開通前後の断面交通量変化 (断面②)



※出典: H22: 道路交通調査、藤枝岡部IC関連開通後: H28年調査

3. 対応方針(原案)

(1) 今後の事業評価の必要性

- 一般国道1号藤枝岡部IC関連は事業が完了しており、整備目的どおりの効果が発現していることから、今後の事後評価の必要はないと考えます。

(2) 改善措置の必要性

- 一般国道1号藤枝岡部IC関連は、整備目的を達成していると判断できるため、改善措置の必要はないと考えます。

(3) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 同種事業の計画・調査にあたっては、広域的な効果が発現するという観点で道路整備による多面的な効果の把握に努める必要があると考えます。

また、事業評価手法の見直しの必要はないと考えます。